

ふじみサラダボール子育て情報



「ことばから言葉が育つ」
令和元年12月11日号
板橋富士見幼稚園



語り合う遊びと自己主張

日々、お子さんと語り合っていますか。文部科学省は、平成27年の学習指導要領において、「学ぶとはどのようなことか」「知識とは何か」といった、「学び」や「知識」等に関する要素を議論の出発点としながら、学習する子どもの視点に立ち、育成すべき「資質と能力」を以下のような三つの柱としてあげています。0歳から大学まで一環した教育として、1つめは「考える力・工夫する力・表現力」、2つめは「主体性」、そして3つめは「対話的深い学び」です。



これによって、教え込む教育から自ら考え学ぶ教育へ大きく変換しました。その理由として、人が自分らしく生き抜く力を育成し、20年後に職業の40%がAIに奪われると予測される中で、職業の選択に耐え抜く力を育てていくためだとしています。

0歳から2歳頃までは親にしっかりと依存しながら育ちますが、2歳から急激に自我が芽生え、自己中心的な考えや自己性が高まって、物事にこだわる行動が強まってきます。この時期の家庭教育が一番難しく、親として悩むことの多い時期です。多くの親御さんは、わがままになってしまうのでは、気ままになったらどうしようなどと、心配する方も多いと思いますが、大丈夫です。大切な時期をしっかりとした依存の中で育った子どもは、自我と共に自分の主体的な考えで行動を押し切ろうとしている訳ですが、その時は、「『どうして』したい（やりたい・ほしい）の？」と理由を聞き出してあげてください。子どもの言うことなので「やりたい」「ほしい」という単純な返答ですが、自己の考えを言葉で主張させてあげることが大切なのです。

自分の考えや判断したことを、人に伝える「習慣」を学ばせていくことで、主体的で対話的深い学びの基盤が育つのです。頭ごなしに否定したり、親の考えを強く押しつけることは、知的で高い能力を阻害することとなります。早期の教育の詰め込みを行うと、一時的には教え込まれなかった幼児とでは大きな差が見られます。しかし、長期的に見ると、明らかに幼児期に遊びを中心に考えたり、工夫したり、親から考えを引き出された子の方が、将来能力が高いと実証されています。焦らず、じっくりと遊びを楽しませ、思いを語らせてあげたいものです。